

市財政を家計に置き換えたら...

Part2

おばあさんへの仕送り (特別会計：国保・老健・介護)

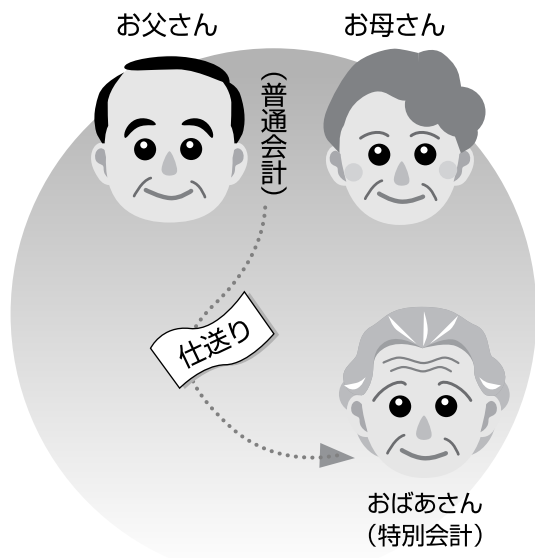
先月号では、加西市の財政状況を「加西家の家計」にたとえました。10年前と比べると、家計を苦しめている原因に「子どもなどへの仕送り(特別会計への補てん)」がありました(11月号参照)。今回はもう少し「家族」の内容を詳しく分析。

なぜ仕送りが増えたのか考えてみます。



仕送りが多いのは、弟、おばあさん、お姉さん、お兄さんの順です。図1を見ると、17年度の「加西家」の仕送り金額は140万円(注1)(実額：33億6千万円)で7年度の約2倍になっています。これはおばあさん(国保・老健・介護特別会計)・弟(下水道事業会計)への仕送りがそれぞれ約3倍・2倍となったためです。

(注1) 加西市の財政規模を2400分の1に縮小した額。先月号参照。



仕送り：
一般会計(普通会計の一部)からそれぞれの特別会計や企業会計への繰出金・補助金のことです。加西市では国の制度上、一般会計が特別会計や企業会計の収入の一部を負担する部分と、企業会計の収入不足分を補う部分があります。

特別会計と企業会計：
特別会計は特定の事業の収入と支出を一般会計とは区別して処理するための会計で、企業会計は企業経営という観念を取り入れた会計です。

